

米の穀粒中のアミロース局在の解析

成果の特徴

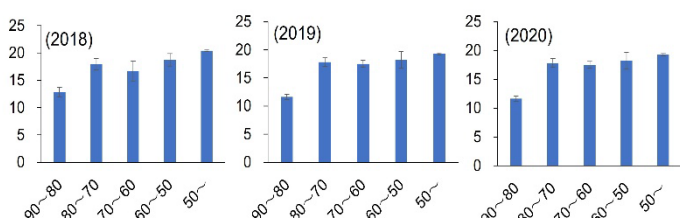
- 米穀粒の、表層から10%ごとの層におけるアミロース含量を解析する方法を確立しました。
- アミロースの局在が品種間において異なることや、同一品種であっても年次間差が存在する場合のあることを明らかにしました。

成果の内容

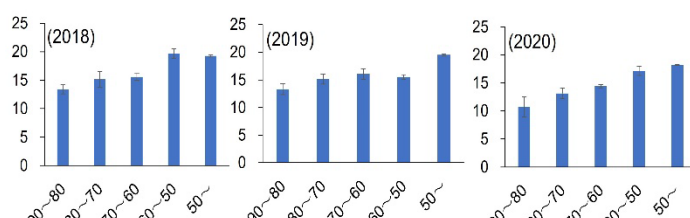
グラフの縦軸はアミロース含量 (%) を示します。横軸は搗精歩合を示し、90~80は、90%搗精と80%搗精の間のアミロース含量を示し（他も同様）、50~は、50%搗精した穀粒のアミロース含量を示します。

年次間差の小さかった品種

やまだわら

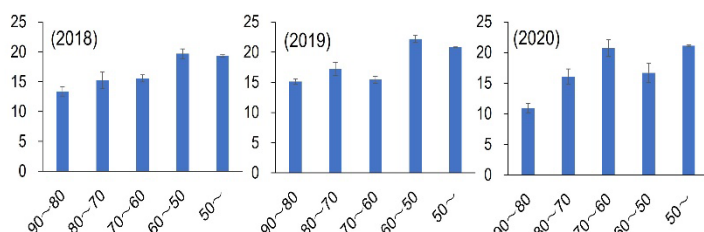


あきだわら

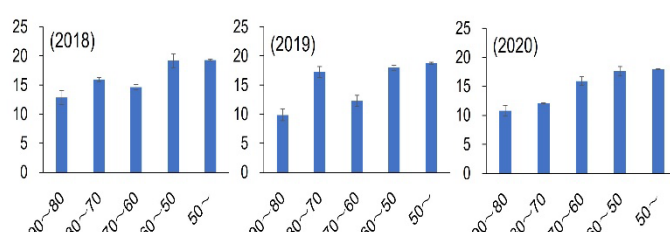


年次間差の大きかった品種

日本晴



笑みの絆



想定される用途・連携希望先

米の品質を評価している企業における研究利用や、気象変動に関する米の品質変化の解析を行っている企業や研究所との連携を希望します。

※ 科研費 基盤研究(C) (18K05498) 「需要拡大に向けた新規なコメ品質特性の解明」の支援を受けて実施されました。